

「好きなものを好きと言えるように」

11月4日に行われた「23ヒューマンライツメッセ」で小学生から大学生までの5人が人権問題に関する意見発表を行いました。その中から、鳴門中学校3年 佐藤 楓夏さんの意見発表を紹介します。

最近、世界中でジェンダーフリーの動きが活発になっていきます。男女の差別をなくそう、多様性を大切になど、ジェンダーフリーでもいろいろなテーマが掲げられています。その中でも、私が気になったのは「ジェンダーフリーおもちゃ」です。

「ジェンダーフリーおもちゃ」とは、男女問わず、心と体の性別が異なる、トランスジェンダーの子も遊べるようなおもちゃのことをいいます。先日、ニュースで特集を組まれていたので、気になって見てみると、女の子向けとされてきたおもちゃごとセットが、青や白でまとめられたシンプルなデザインになっていたり、男の子向けとされてきた工具のおもちゃが、女の子向けだと紹介され、ピンクや赤の可愛らしいデザインになっていたりしました。私は、「どうして?」とすぐ疑問を抱きました。

どうして、おままとセットはシン
ブルなデザインにしないでならない
のか、どうして「ジエンダーフリーお

もちや」なのに、女の子向けと称して

いたり、可愛らしいデザインにしていたりするの。果たして、これらのおもちゃは求められているものなののでしょうか。正しい「ジェンダーフリーおもちゃ」と呼べるものなのでしょうか。これらのおもちゃを「ジェンダー

フリーおもちゃ」と呼ぶのであれば、そもそも、「ジェンダーフリーおもちゃ」は必要なのでしょうか。もちろん、シンプルなデザインがあれば、どんな子も遊びやすいと思いますが、可愛いものやカッコいいものを、すべてシンプルなデザインに置き換えてしまうのは、正しい配慮とはいいがたないと考えます。私は、小さい時に戦隊ヒーローや仮面ライダーに憧れていた。どんな窮地に陥ろうとも敵に打ち勝ってゆく姿に。ですが、それらは当時、男の子向けとしてつくられたものでした。それでも、ずっと好きで見ていたし、父も母も「見るな」とは言いませんでした。幼いながらも、自分はこの子と好みが違うとは思っていません

たが、「好きだからいいや」と考えることができていたのは、まわりがそんな私を否定しなかったからだと思います。それと同じではないでしょうか。

大切なのは、おもちゃに限らず好きな

物を好きでいさせてあげることだと

思います。可愛らしいおもちゃをシ

ンプルなデザインのみにしてしまう

のは、本当によいことなのでしよう

か。元々の可愛らしいデザインが好

きな女の子はもちろん、かわいいも

のが好きな男の子も買いにくいとは

いえ、欲しいのは、遊びたいのは、

シンプルなおもちではなく、かわ

いいおもちゃなのに。かわいいもの、

かつこいいものが好きな子たちも尊

重さされるべきなのに、今の社会は、

ジェンダーフリーばかりに目がいつ

ているように思います。子どもたち

が目を輝かせて憧れる、「かわいい」や

「かっこいい」を大人が世間体ばかり

を気にして、ないがしろにしてしまっ

ている中、だれが子どもたちの「好き」

を守るのでしょうか。大人たちがほこ



鳴門中学校 3年
佐藤 ^{ふう か} 楓夏さん

らしげに語るジェンダーフリーは、子どもたちを窮屈にできてしまっています。それにいち早く気付いてもらうためには、私たちが今、声をあげていかなくてはならないのです。

これから先、私たちが大人になった
 ときのため、未来を生き、おもちゃで
 遊ぶ子どもたちのために。正しいジェ
 ンダーフリーとはどういうものなの
 か。今、求められているのは、シンプ
 ルなデザインのおもちゃなのか。本当
 に求められているのは、どんな子も、
 声をあげてどんなデザインのおもちゃ
 でも「欲しい」といえる世の中なのか。
 ないでしょうか。

本当に必要とされているものについて、一人一人が向き合って考える世の中こそ、多様性に対応する世の中であると私は考えます。いつか、みんなが理想とする世界にたどりつけるように、私はひたすら考え抜いて、行動に移して生きていきたい。胸を張って、好きなものを好きといえる世界になるように。